

緊迫のガザ、支配するハマスとは 抵抗運動「自由、独立まで」 トンネルや人質、権限分散など徹底抗戦

注目の連載 浦松丈二



錦田愛子・慶応大教授

パレスチナ自治区ガザ地区を支配するイスラム組織ハマス。地下に張り巡らしたトンネルを駆使して徹底抗戦する構えだが、イスラエル軍は100カ所以上の出入り口を破壊し、攻勢を強める。イスラエルの閣僚が核使用の可能性に触れるなど情勢は緊迫する。**ハマスとはどんな組織なのか。果たして、この危機に出口はあるのか。**

イスラエル軍が侵攻したガザ地区最大都市のガザ市中心部に位置する「シファ病院」。この地下にハマスの司令部があるとみて、病院への本格攻撃に踏み切る可能性が取り沙汰される。同地区最大の病院には多数の負傷者や避難者がいるとされる。イスラエル側に発見、攻撃されにくくするため、トンネルの出入り口は病院や学校、モスク（イスラム教礼拝所）などの民間施設に設置され、トンネル内部には武器、弾薬庫のほか、有線電話網が設けられているといわれる。

ハマスは10月7日のイスラエルへの一斉攻撃で拉致した多数の人質をトンネル各所に拘束している模様だ。中東の衛星テレビ「アルジャジーラ」によると、ハマスの指導者イスマイル・ハニヤ政治局長は1日の演説で「パレスチナ人が自由、独立、帰還の正当な権利を得る」まで抵抗を続けると述べた。

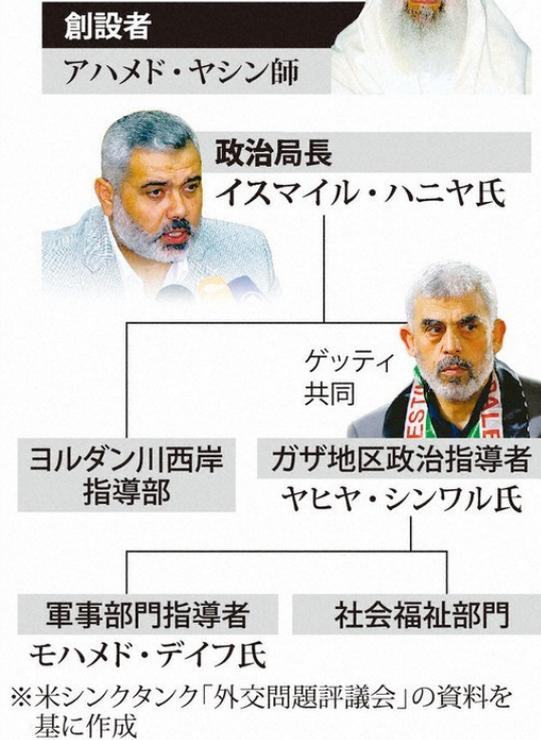
そもそもトンネルはなぜ掘られたのか。イスラエルは**2007年**、**テロ防止などを理由としてガザ地区に分離壁を建設**。以来、ガザ地区は人やモノの出入りが厳しく制限された「天井のない監獄」と呼ばれるようになっていく。**封鎖状態が生み出したのが地下のトンネル**だった。困った**ガザ地区の住民**たちが**資金を持ち寄って、壁の地下を掘り、エジプトから生活物資を「密輸」**するようになった。

ガザ地区を調査研究で訪れたことがある**錦田愛子**・慶応大教授（現代中東政治）が話す。「トンネルは**当初、食料、燃料、医薬品などの運び込み**に使われていました。**エジプトがハマスの出身母体、イスラム組織ムスリム同胞団**主体の**モルシ政権**のころは黙認されていましたが、**14年に同胞団に厳しいシシ政権**になってからは、**大半のトンネルが破壊**されました。私は15年に周辺を訪れましたが、トンネルを破壊するダイナマイトの音が鳴り響いていました」

ハマスはトンネルを軍事目的に利用し、資金を出して増設した。**「イスラエル側に潜入するために掘ったり、ガザ地区内に張り巡らせ攻撃の拠点にしたり**していきます。封鎖で不足する建築材料も工夫して調達しているようです。破壊された建物からグニャグニャになった鉄筋を取り出し、特殊な工作機械でたたいて使えるようにする場面の映像を見たことがあります」

中東地域を長年研究してきた**高橋和夫**・放送大学名誉教授は「ガザにないものは希望です。だからハマスが生まれたのです」と語る。**ハマス**とは、**アラビア語で「イスラム抵抗運動」の頭文字**で、同じつづりと発音で「情熱」「熱狂」という意味になる。1948年にイスラエルが建国を宣言し、故郷を追われたパレスチナ人難民がヨルダン川西岸やガザ地区、周辺諸国に流入した。**ハマスは87年12月に占領下のパレスチナ人による対イスラエル民衆蜂起（第1次インティファダ）が始まった直後に設立された。**

ハマス組織図



ハマス組織図

高橋さんは「**創設者のアハメド・ヤシン師**は、重度の身体障害者で、貧困救済などの慈善事業を実践し、カリスマ的な人物だったといわれています」と解説する。

当時、パレスチナの各種世論調査では、パレスチナ解放機構

(PLO) の**故アラファト議長と人気を二分**していた。ガザ地区の難民キャンプで育ち、事故に遭って車いす生活に。活動中にイスラエル当局に逮捕され、終身刑判決を受けたが、イスラエル情報機関員との交換で釈放された経験を持つ。

毎日新聞のインタビューに「郷土に対する占領が残っている限り、パレスチナ解放までイスラムの教えにのっとりて闘争・聖戦を続ける」と語っていた。**ヤシン師**は2004年3月にイスラエル軍のミサイル攻撃を受け死亡。ヤシン師の後継者となった小児科医の**ランテイシ氏**も同4月にミサイル攻撃で死亡した。

現在、**西岸地区では PLO 主流派のファタハが、ガザ地区ではハマスが実権**を握る。高橋さんは「パレスチナが分断統治され、一つにまとまっていない状態は交渉窓口を絞れず、**対話を拒むイスラエルの強硬派にとっては都合がよい。これもハマスが生き延びた理由**と考えられます」と語る。

ハマスの指導者は、06年の選挙後に自治政府首相に一時就任した**ハニヤ政治局長**だ。**1962年にガザの難民キャンプで生まれ、地元のイスラム大学で抵抗運動に身を投じた。**ヤシン師と一緒にいた際、イスラエル軍のミサイルが撃ち込まれ、九死に一生を得た経験を持つ。**今はハマスを支援するカタールに滞在**しているとされる。

先の錦田さんは「相次いで指導者を暗殺されたハマスは、それ以来、ガザ地区と外部に権限を分散させる体制を取りました」と説明する。

ガザ地区は、**軍事部門指導者のモハメド・デイフ氏と政治部門指導者のヤヒヤ・シンワル氏**が率いる。**この2人はイスラエル側から今回の一斉攻撃の首謀者とみなされる人物**だ。

「イスラエルはテロ組織とみなしているハマスとは交渉しないため、**ガザの政治部門は活動の余地がありません。**物理的に地区の外に出ることも難しい。そのため、カタールに拠点を置く**政治部門が外交の役割**を担い、より重要な人物が配置されているようです」と錦田さん。「ハマス壊滅」を目標とするイスラエルにとり、この**分散指導体制はやっかいな仕組み**だろう。

外務省中東アフリカ局参事官などを歴任した宮家邦彦・キヤノン
グローバル戦略研究所理事・特別顧問は「イスラエルはコラテラル・ダメージ（民間人被害）を拡大させれば負けなので、慎重に作戦を遂行しているように見えます。しかし、ハマスは民間人を盾にしているので、被害をゼロにすることは難しいでしょう。一方、ハ

マスにしても、多数の人質を殺害すれば、本当にせん滅されてしまう。現状では、イスラエル、ハマスの双方ともに出口は見えてこない」と語る。

宮家さんは「この問題を近視眼的に見るべきではない」と指摘する。「このままではイスラエルもハマスも戦闘を停止しないでしょう。人質が死ぬ可能性もある。その混乱がレバノンやイランに波及すれば石油の値段が上がり、供給がストップする可能性すらある。当初、そうなる可能性は低いと見ていましたが、事態はその方向に進んでいます」

レバノンの**イスラム教シーア派組織ヒズボラ**の指導者は「すでにイスラエルとの戦闘に参加している」と表明したほか、**イエメンの親イラン武装組織フーシ派**はイスラエルを狙ってミサイルや無人機を発射している。5日にはハニヤ氏がテヘランを訪れ、イランの最高指導者ハメネイ師と会談したと伝えられた。

「出口のない危機」。ハマスとイスラエルがそれを認識し、停戦にかじを切れるか。双方の死者はすでに1万1000人を超え、予断を許さない状況が続いている。【浦松丈二】

ハマスの歴史

1987年 パレスチナ人による対イスラエル民衆蜂起（第1次インティファダ）が開始し、ハマス発足

93年 イスラエルとパレスチナ解放機構（PLO）が**オスロ合意**を結ぶが、**ハマスは拒否**

2000年 第2次インティファダ開始

04年 イスラエル軍がハマスの最高指導者ヤシン師と後継者のランティシ氏を相次いで殺害

06年 第2回パレスチナ評議会選挙でハマスが過半数を獲得
ハマスによる実質単独内閣が発足
ハマスとファタハがガザで衝突

07年 **ハマスとファタハによる連立政権が発足**
両派の抗争が再び激化し、ハマスがガザを武力制圧してパレスチナが分裂
イスラエルによるガザの封鎖政策開始

14年 イスラエル軍がガザへ地上侵攻

21年 **イスラエルとハマスの大規模軍事衝突**